

P21 単球の増加を伴う舌のしびれ感に対する麻黄附子細辛湯の有効性についての検討

○亀井 勉¹ 羽田克彦¹ 鳥海善貴² 村田幸治²
鈴木信孝³

¹島根難病研究所 ²島根医科大学小児科

³金沢大学医学部産婦人科

[目的]麻黄附子細辛湯は、老人や虚弱者における、特に悪寒を伴う感冒や呼吸器感染症を主な適応としてきた。一方、麻黄附子細辛湯は、インフルエンザウイルスに有効であることも近年報告されている。今回、われわれは、舌のしびれ感があり、単球の増加がみられた高齢者に対し、麻黄附子細辛湯（コタロー麻黄附子細辛湯エキスカプセル [以下NC127]、1日の服用量は6カプセル [1200mg]）を1/2の服用量（600mg）にて投与し、症状、末梢血中の単球数の変化等を調べた。

[症例] 症例は90歳、女性。現病歴：アルツハイマー型痴呆、高血圧、慢性胃炎等にて近医で経過観察されていた。既往歴：1996年3月、左大腿骨転子部骨折。1997年12月、腰椎圧迫骨折。

現症：身長145cm、体重34kg、体温36.7℃、脈拍86/分、血圧150/94。2000年6月初旬頃より、舌のしびれ感出現。血液検査にて、白血球数6880/mm³、単球数は1510/mm³（21.9%）と高値であった。6月16日よりNC127（600mg/day）投与を開始した。

単球数は、7月1日では白血球数4330/mm³に対し1009/mm³（23.3%）とやや減少し、8月5日では白血球数4190/mm³に対し323/mm³（7.7%）まで改善した。7月中旬より舌のしびれ感は改善傾向認め、7月下旬には舌のしびれ感は消失したためNC127投与を終えた。なお、血清亜鉛は基準値下限の値であった。

[結論] 本症例の舌のしびれ感は、亜鉛欠乏による可能性は低い。本症例では、末梢血中の単球の増加を認めていたことから、何らかのウイルス感染によって舌のしびれ感を引き起こされた可能性が推測される。末梢血中の単球の増加を伴う舌のしびれ感に対して、通常の1/2服用量でのNC127の投与が有効であることが示唆された。